

採用パンフレット

# 子どもたちが私を 先生にしてくれる



社会福祉法人  
美樹和会

〒604-8861 京都市中京区壬生神明町 1-13

採用窓口 TEL 075-432-8534

<http://migiwahoikuen.com/index.html>



みぎわ  
社会福祉法人 美樹和会

# 保育は人をつくり、未来を紡ぐ

## みぎわの保育の根幹と若手へのメッセージ

「みぎわ保育園」は1978年、伏見桃山の地で開園しました。ちょうどそのころ、桃山南団地が開発され、子育て世帯が多く入居してきていたのです。こうして、まだ原野だった土地に園舎が建てられ、みぎわの歴史が始まりました。

### ▶ 01

### 時代は変化しても、変わらないみぎわの保育の根幹

#### 塩谷

藤村先生はみぎわ保育園の開園当初から保母（現在は保育士）として勤務されてきました。私も80年代前半の乳児のころ、みぎわ保育園で藤村先生に保育をしていただいたことがあって、人生のスタートをみぎわから始めています。

当時は私の祖母が園長で、90年代半ばから父がそのあとを継ぎました。そして2018年に私が父より事業を承継し、みぎわの保育をいまの時代の保育ニーズに合った、より質の高いものにしようと努力をしているところです。この対談では、藤村先生をはじめ、みぎわとゆかりの深い職員の皆さんと、「時代は変化しても、変わらないみぎわの保育の根幹」があること、そしてそれはどのようなものなのかを掘り下げていければと思っています。まずは、みぎわの創成期がどのようなものだったのか、藤村先生からお話しいただけますでしょうか。

#### 藤村

みぎわ保育園は、初代理事長の小野一郎牧師と、塩谷いく子・初代園長の方針のもと、キリスト教を軸とした保育を行っていました。職員はキリスト教精神を学ぶため教会に通ったり、聖書研究を職員間で行ったりしており、日々の保育のなかでも礼拝や祈りを通じて、相手を思いやる気持ち、すべてのことに感謝する気持ちを園児たちに伝え、それがその子どもたちのこれからの長い人生に活かされることを願って保育を行っていました。月に1回は小野牧師が、職員に対して聖書のエピソードを題材に講話をしていたものです。

いまのみぎわは、当時ほどキリスト教保育という側面を強調してはいませんが、それでも当時のように、キリスト教精神のあらわれである「隣人愛」と「感謝」を子どもたちに伝えたいという思いは変わっていません。



#### 塩谷

その思いは、いまのみぎわの幼児組でとくに受け継がれていますね。形式上の礼拝になることなく、毎日の園生活のなかで相手への思いやりや感謝の気持ちを子どもたちが自然と抱き、そしてその思いを表現できるようになるように工夫しています。

祈りといっても難しく捉える必要はありません。たとえば、クラスの誰かが病気になってお休みしたとき。その子はいま発熱などで辛い思いをしているであろうこと、早く元気になってまたみんなといっしょに遊べるようにと、保育士と子どもたちはその回復を祈ります。お友だちの誕生日には、その子が何年前かにこの世に生を受け、幸せになってほしいという保護者さんの願いを注がれて、いままで元気に育ってきたことにみんなで思いを馳せます。そして、その子とこれからもたのしく遊びながら過ごしていくことができるようにと、クラスのみんなでお祈りします。

祈りは特別な儀式ではなく、日常の保育に織り込まれていて、そうした環境で生活していくなか、自然と思いやりに満ちた子どもに育っていくものと信じています。



### 対談者



塩谷 素  
理事長  
1986年度 みぎわ保育園 第9期卒園生

藤村 登美子  
1978年度 みぎわ保育園入社



若林 薫  
中京みぎわ園 主任  
2007年度 みぎわ保育園入社

#### 関谷 奈月

みぎわ保育園 園長  
1981年度 みぎわ保育園 第4期卒園生  
1996年度 みぎわ保育園入社





# 保育は人をつくり 未来を紡ぐ

## みぎわがもつ 遊びへのこだわり



👍 関谷

私はみぎわ保育園の開園時に2歳児で入園し、年長クラス(1981年度)では藤村先生が担任でした。当時の卒園アルバムに、自分の将来の夢として「ほいくえんのせんせいになりたい」と書いておるとおり、これまで私の夢はいちどもブレたことはありません。京都文教短期大学を卒業後、新卒でみぎわ保育園に入ったのも、園児のとき藤村先生に強い憧れを抱いたからです。

私は、藤村先生から受けた保育を、自分も園児たちにしたいと思って保育士になりました。園児のころを思い返すと、藤村先生に「一人の人間」として向き合ってもらった記憶がよみがえってきます。自分にいつも向き合ってもらえた、自分が興味をもったことや集中してやりたいことがあるとき、その思いを受け止めてもらえて、心から満足するまで遊んでもらえた。今から振り返ると、私たち園児が遊びに夢中になれるように、保育計画や環境設定が考え抜かれ、かつ現場での臨機応変な対応があったのだと



せきのなづき  
1 おとまりほしのおもしろかった  
2 ほいくえんのせんせいになりたい

関谷園長が描いた将来の夢：当時の卒園アルバムより

わかります。そしてそのおかげで、園児だった私は毎日「今日はこれでめっちゃ遊んだ！あー、楽しかった！」という満足感をもって家に帰っていました。

だからこそ、子どもたちが気のすむまで「遊びこむ」こと、そのための創意工夫を絶えず凝らすことが大切だと信じています。「この遊びはここまでで終わり、次はこれをしましょう」と、保育士が子どもたちの時間を大人の都合で区切ることはみぎわではしません。子どもたちは何を考え、何をしたいのか、どう感じているのか。そういった思いを受け止めて、遊びを発展させるようなかわりを常に心がける。そして保育士も子どもたちと一っしょに、めいっぱい遊びこむ。今も昔も、この姿勢がみぎわの保育の根っこにあります。こうした保育園時代の経験が、子どもが自分で考える力、自分が何をしたいのかを選んで決める力を育むのです。



1981年の藤村職員と関谷園長（みぎわ保育園 園庭にて）

## あなたはあなたでいい

👍 藤村

私は50年近く保育現場に身を置き、多くの子どもたちと向き合ってきました。そのなかでずっと大切にしてきたのは、「あなたはあなたでいい」と、ありのままの子どもをまずは大人が受け入れることです。いたずら好きなあなた、走るのが早いあなた、すこし怖がりで新しいことに挑戦するのに慎重なあなた…。みんな、そのままのあなたでいい。いろんな個性をもつ子どもがいて、ひとりひとりがその子だけにしかない輝きをもっています。

保育の仕事始めたころは、受け持ったクラスのみなを愛したい、愛さなくてはいけない、と気負っていたころがあったかもしれません。それでも、保育士と園児であってもやはり人と人ですから、保育現場のなかで気の合う子どもと、なかなか関係を築けない子どもとがいます。そんなときは、うまく関係を築けない子どもこそ、その「ありのまま」をまずは大人側が受け入れることです。

クラス全体をうまくまとめるという、集団に対するまなざしが「横糸」だとしましょう。これに加えて、その子のありのままを受け入れるという、個人を大切にできるまなざしを持つこと。すると、その子だけがもつ優しさ、強さ、発想の豊かさ、もちろんときには弱さなどもおのずと見えてきて、子ども一人ひとりへのまなざしが「縦糸」として紡がれていきます。そうすると、子どもの側も自分を受け止めてもらえた安心感から、保育士と子どもとの関係は少しずつ築かれていくものです。

👍 塩谷

藤村先生、関谷先生の話には、この対談のテーマである「時代は変化しても、変わらないみぎわの保育の根幹」が凝縮されていますね。みぎわはふたつの保育理念を掲げており、ひとつは「遊びひとすじ、みぎわっこ」、もうひとつは「子どもはみんな一番星」というものです。関谷先生が熱弁されていた遊びへのこだわりは「遊びひとすじ、みぎわっこ」という理念を、藤村先生が語られた「あなたはあなたでいい」という考えは「子どもはみんな一番星」という理念を、それぞれ雄弁に物語っていると感じます。





## 保育は人をつくり 未来を紡ぐ

### ▶ 02



### 保育士を目指す人への メッセージ

👍 藤村

ここからは、保育士をめざす人向けのメッセージになると思います。子どもたちの意思を尊重し、遊びを展開していくなかで、子どもどうしのトラブルは避けられません。ときには、自分の思いが通らないことに不満を覚えて、問題行動をとる子もいます。そんなとき、保育士に求められることは何でしょうか。それは、「子どもの気持ちを引き出すようなかわりができるかどうか」です。すぐに叱ってしまうと、子どもたちは自分の思いのやり場を失って、問題行動をエスカレートさせることが多いんですよ。問題行動があったときでも、「どうしたん？何が嫌やったん？」とまずは子どもの気持ちを聴く姿勢を示す。そして実際、その子に尋ねてみると、「〇〇君にぼくが遊びたいおもちゃを貸してって言っただけ、あかんって言われた」というように、自分の思いやそのときの感情を言葉として表すことができるものです。自分の気持ちを聞いてもらえた、これだけでもずいぶん子どもは落ち着きを取り戻します。子どもの気持ちを言葉に置き換えていくなかかわりを行う。これが大人、とくに保育士の大きな役割といえるでしょう。

### 子どもたちが、私を 「先生」にしてくれた

👍 若林

私は2007年に保育士としてみぎわ保育園に就職しました。私は同期とくらべてあまり自分のやりたいことを主張できるタイプではなくて、成長は遅かったのではないかと思います。それでも、保育にかける想いは人一倍強く、日々自分の保育を振り返ったり、先輩のアドバイスを積極的に吸収して実践しようとしていたりして、努力を重ねてきました。

保育士として私が大切にしてきたのは、まずは先生というよりも、友だちとして子どもたちと関係を築くことです。はじめから自分は「先生」なんだと意気込まないほうがいい。新しいクラスを受け持つとき、まずは自分が友だちとして子どもに認められることをめざします。子どもたちと向き合って、毎日の活動のなかでともに遊び込んでいるうち、「この人は信頼できる、自分を受け止めてくれる、守ってくれる」ということを子どもは肌で感じてくれます。子どもに受け入れられてはじめて、保育士は「先生」になるのです。

一年間向き合った子どもたちも、年度末には次のクラスに進級していきます。そのとき、次のクラスも先生といっしょがいいと子どもが言ってくれたときや、来年も先生にうちの子をみてもらいたいと保護者さんにおっしゃっていただいたとき、この仕事をしていて本当によかったと感じます。



👍 若林

私が保育士になって2年目。0歳児のクラスを担当したときのことです。私の姿を見るだけで泣いてしまう子どもがいて、その子との関係づくりにずいぶん苦労しました。その子の思いを受け止め、日々の成長を見守り、辛抱強く関係構築の努力を重ねました。やがてその子は私のことを受け入れてくれるようになり、その後、年度が変わって担任は離れましたが、その子が5歳児のとき(保育士7年目)にまた担任を受け持つことになったのです。

もちろん同じ園で働いていましたから、クラスは離れてもずっとその子の育ちを見てきてはいたのですが、年長という卒園を控えた年次で最後の担任を受け持つ機会に恵まれて、その子の成長にまた主な責任をもち、毎日接する日々がはじまりました。乳児のころの子どもとの信頼関係はもちろん重要なのですが、

幼児になった子どもたちから受ける信頼感や、保育士と子どもたちとの関係性は、乳児よりもっと双方向的かつ濃密で、そこに大きなやりがいを感じたものです。

年長は保育園生活の集大成となる年です。保育のなかその子が見せてくれる成長はさすがで、行事で堂々と発表しているたくましい様子、そして卒園式のときに立派に卒園証書を受け取りに向かうたのもしい背中を見ると、保育のさまざまな苦労も吹き飛びます。0歳児からその子を見ていた担任として、涙が止まらなくなるほどのうれしさと、その子がこれから小学生になってみぎわから羽ばたいていくことへの一抹の寂しさがないまぜになった、まさに万感の想いを感じました。保育の仕事のやりがい、すばらしさを知った瞬間でした。



0歳児から見てきた園児の卒園の日



## 保育は人をつくり 未来を紡ぐ



👍 藤村

いま若林先生のお話しをお聞きしていて、「0歳児の子を卒園まで見届けられた」、「その子の担任として全力を尽くせた」という経験があったからこそそのエピソードだと思いました。保育士は長く続ければ続けるほどやりがいを感じることでできる仕事です。子どもたちのありのままを受け止め、その子のいまの姿に寄り添って遊びこむ。そのなかで子どもたちの信頼を勝ち得て、「先生」になっていく。そして、いつか来る卒園の日に、子どもたちのこれまでの成長と頑張りを心から祝福し、これからの人生に幸多かれと願う。これは何物にも代えがたいよころびですし、こんな感動とよころびを毎年感じることでできる仕事はそう多くはないのではないのでしょうか。



みぎわ保育園のように40年以上続いていると、卒園児の子どもを2代、3代にわたってお預かりすることもある。かつての園児に保護者さんとして再会することも頻繁にあります。塩谷理事長もみぎわの卒園生で、私が保育したこともあります。二人のお子さんをみぎわに通わせました。塩谷いく子初代園長から数えると、みぎわとの関係はもう4世代にわたりますね。また、私の教え子の関谷さんが保育士としてみぎわに戻ってきて、いまは園長になっているというのも、とても感慨深いことです。まさに「保育は人をつくり、そして未来を紡ぐ」ものだと、改めて感じます。



かつて自分の育った園庭で、子ども達と遊びを楽しむ関谷園長

## 保育士も、子どもとともにゆっくり成長すればいい

👍 藤村

子どもへのまなざしとして、「あなたはあなたでいい」と言いましたが、新任の保育士にも同じことを伝えたいと思っています。はじめから子どもとの関係づくりをうまくできて、保育技術もちゃんと持っていて、同僚とうまくチームワークを発揮できる、というような人はいません。それは保育現場で働くなかで、徐々に培われていくものなのです。だからこそ、若い保育士の方々には「あなたはあなたでいい。あせらなくていい。自分のペースで成長すればいい。自分の強みをゆっくり伸ばせばいい」というメッセージを伝えたいと思います。

👍 若林

たしかに、子どもの集団にすぐに入り込んで、いきなり遊びを展開するのは難しいものですね。新任の保育士はまず、子どもに一对一で向き合い、じっくり遊びこむことから始めてみるといいと思います。そして子どもが困っているときに自分からスッと歩み寄り、寄り添ってみることで、それがすべての出発点になります。



👍 藤村

保育士として現場に入ってくる若い人は、みんな心の中に「熱量」をもって感じています。熱量は、熱意、やる気と言い換えてもいいかもしれません。保育士を志す人は、幼いころからの夢を胸に抱いて、保育現場で子どもと向き合い、その成長を支えたい、そうしたまっすぐな思いを持っている方が多いと感じます。では、その熱量を、どう保育現場で発揮してもらうか。

私は、「やらされ感」が強いと、その熱量は発揮されないと 생각합니다。経験が浅くても、保育技術が未熟であっても、自分がどんな保育をしたいのかをどんどん提案し、そして実現できる職場環境こそが大切だと考えています。子どもに本気で向き合い、遊びこみ、保育士自身も楽しめるような保育内容であれば、多少の粗があっても、若手の裁量にまかせていくべきでしょう。若い人の感性はとて瑞々しく、中堅、ベテランにとっても刺激になるのですから。

その一方で、中堅、ベテランは若手に学びつつ、その豊富な経験を活かして若手の手本となるような保育手法や技術を伝えていかなければなりませんね。若手だからまだやりたい保育ができない、ベテランなら自由にできる、というのではなく、お互いを尊重し、意見交換を活発に行い、保育技術をお互い切磋琢磨して磨き合っていく保育集団でありたいと私たちは願っています。





2018年入社・みぎわ保育園

## 保育士

竹内あかり

京都文教大学  
短期大学  
3年卒業



2014年入社・中京みぎわ園

## 保育士

辻村萌乃

京都文教大学  
短期大学  
3年卒業



周囲のサポートに恵まれた環境で  
自分の理想の保育を追い求めていきます。

### 子どもの個性を大切に保育に共感

保育士として経験を重ねるうち、自分のやりたい保育について考えるようになりました。「みぎわ保育園」に転職したのは、園の保育に対する考え方に共感したから。子どもの個性や自主性を大切にしながら、遊びを通して学ぶという方針は、私の目指す保育にも通じるものがありました。印象的だったのは、先輩方が子ども以上に遊びや行事を楽しんでおられる様子。仕事を楽しみに切り替えていく心の持ちようを学ばされました。

### チャレンジしながら、長く働き続けられる職場

先輩方はすごく優しく、自然に職場に慣れることができました。また、今私は保育心理士という民間資格の取得を目指しているのですが、その費用も法人から支援を受けています。自分の保育をより深めていくためのチャレンジができるのは、周囲のサポートに恵まれ、心に余裕ができたから。自分の興味を持ったことにどんどん挑戦しながら、ライフステージのどんなときでも、ここで長く働き続けたいと思っています。

余裕をもって働けるからこそ  
将来に向けた努力ができます。

### 子どもの成長を間近で感じられるのが幸せ！

入社当初は乳児クラスでしたが、現在幼児を担当しています。乳児の頃から見ていた子どもたちが日々成長し、できることがどんどん増えていくのを間近で感じられることが私の喜びであり、やりがい。保護者の方から「また担任が先生で良かった」と仰っていただいたときも、信頼関係が築けたように感じてとても嬉しかったです。将来はここで得た経験を生かして、医療保育専門士へのステップアップも考えています。そしていつか「この先生だったら」と思ってもらえる存在になることが目標です。

### 定時で退社、有給もきちんと取っています。

最初に働いた保育園は勤務時間が長く、帰宅が深夜になることもありました。私は物心ついた時から保育の仕事が夢だったので、体がつかなくなってきて転職を決意。そんなとき友人に「うちで働いてみない？」と誘われたのが「美樹和会」でした。こは子どもと関わる時間を優先し、書き仕事や作りものの負担を少なくするという方針なので、子どもたちと密接に関われるところが魅力。さらに今は、ちゃんと定時で帰れて、有給もきちんと取れるように！ストレスなく、安定して働き続けられる環境なので、毎日がとても充実しています。



2015年入社・みぎわ保育園

2015年入社・中京みぎわ園

# 経営企画室

坪倉優佳

西村有津紀

佛2015年  
教育学部  
教育学科卒業

佛2015年  
教育学部  
教育学科卒業



保育士が保育に集中できるように  
経営の立場から現場を支えるのが  
私たちの役割。

## ひとつの園に軸足をおきつつ、グループ全体の経営に携わっています。

- 👍 西村 私と坪倉さんは大学の同級生で、2人とも保育士資格と幼稚園教諭免許を持っています。現在は経営企画室のスタッフとして、私は「中京みぎわ園」に在籍し、美樹和会のグループ全体の経営、主に人事と広報を担当しています。
- 👍 坪倉 私は伏見の「みぎわ保育園」に常駐し、園の毎日の事務に携わりつつ、グループ全体の財務を担当しています。
- 👍 西村 私の業務は人事・広報担当という立場上、園外にもよく出かけていきます。有望な人材を発掘しに、大学や短大・養成校に法人の特徴や求人情報を伝えにいたり、法人のパンフレットやホームページのリニューアルに向けて、デザイン会社さんと企画を練るための会議に参加したり。外部の方と接する業務なので、グループの印象を損なわないようビジネスマナーも身につけました。
- 👍 坪倉 私は園に来られる業者さんや保護者さんなどの対応がメインですが、税理士さんと財務・経理に関する打ち合わせをしたり、社労士さんと労務面での相談をしたり、週や月によって業務内容にはバラエティーがあります。
- 👍 西村 毎日の仕事にも変化がありますよね。法人の経営や園の運営に関わりながら、現場の保育・調理スタッフがより働きやすい環境を整えるのが私たちの役割だと考えています。



## 子どもたちの笑顔に接しながら、どの業界でも役立つスキルを磨けます。

- 👍 坪倉 もともと一般事務の仕事にも興味があり、仕事探しをしている時に「みぎわ保育園」の事務職の求人を見つけたんです。ここなら子どもと関わりながら事務もできて、どちらの希望も叶う！と思ったのが決め手でした。
- 👍 西村 私は坪倉さんから、新しく開園する「中京みぎわ園」が事務職を探しているからどう？と誘われたのがきっかけでした。
- 👍 坪倉 入社当初は、当然、保育園の事務の仕事がどんなものか何も知らない状態でした。社会人としての立ち振る舞いや IT スキルも全て一からここで学びました。日々勉強の連続でしたが、一般事務に慣れてくると、徐々に経営にかかわる仕事を任せてもらえるようになりました。仕事中は子どもと遊んだり、話したりすることもあって、それが何よりの癒しとリフレッシュ！保育士という自分の資格を活かしつつ、事務・経営スキルも学べて一石二鳥です（笑）

## 仲間のサポートや法人の制度が自分のキャリアアップを応援してくれます。

- 👍 坪倉 入社後はベテランの事務員さんがつきっきりで仕事を教えてくださいました。わからないことはいつでも気軽に聞ける環境だったので、大きな不安を感じるようなこともありませんでした。
- 👍 西村 私もそうやってサポートしていただきました！さらに、その人のキャリアアップにつながる資格であれば、受験料や教材費などを支援する制度も充実しています。自分のアイデアを盛り込んだ企画などもどんどんできますし、目標を持って頑張りたい人にはやりがいのある働き方ができると思います。私も人事担当として社労士資格の勉強をしており、いつか法人内の人事のプロフェッショナルとしてさらに貢献したいと考えています！

## 自分のいいところを伸ばすことで、 自分らしい働き方に出会えます。

- 👍 西村 美樹和会の施設は京都府下に7箇所あり、それぞれカラーが異なります。自分のいいところ、個性や希望に合った保育園を見つけやすいのも魅力ですね。
- 👍 坪倉 スタッフの年齢層は幅広く、そのキャラクターもさまざま。でも、上から指示されるまま働くのではなく、全員と一緒に考え、子どもたちによりよい保育を与えるため、日々工夫し挑戦していこうという社風がみぎわにはあります。
- 👍 西村 保育士・栄養士・経営企画など職種は違っても、お互い学び合いながら、一緒に成長していける職場だと思います。自分らしく自分のペースで働きながら、夢や目標を見つけてください！





2014年入社・中京みぎわ園

## 栄養士

鎌倉エリナ

東京都文京区  
栄養教諭短期大学  
卒業



## 子どもたちのおいしい! つくるスタッフも楽しい! 「食」を通して、より豊かな保育の場に。

### 「おいしい!」の言葉に「よっしゃー!」

私は「中京みぎわ園」で給食の献立づくり、栄養価計算、調理などを担当。みぎわの給食の特徴は、食材をたくさん使った和食中心の献立。「おいしかった!」の言葉が何よりの喜びです。それに子どもたちが嫌いな食材を調理方法や献立を工夫し、「食べられたよ」と伝えてもらったときは「よっしゃー!」(笑)。食育の取り組みとして、子どもたちと一緒にクッキングをすることもあります。子どもと関わる機会が多いので、さまざまな反応がダイレクトに返ってくるのも魅力のひとつです。

### スタッフの「楽しく」が「おいしい」につながる

給食室のチーフとして大切にしているのは「とにかく楽しい職場環境」。つくる人の気持ちが味にも表れてくるので、お互いストレスのない関係づくり、雰囲気づくりを心がけています。今後の課題は、保育と食との連携。保育士のみなさんと私たちが子どもの情報を共有すれば、さらに豊かな保育につながっていくと考えています。お迎えの時間には保護者の方とお話しする機会も増えてきました。「家ではなかなか食べないものも保育園だと、おいしかったって言って食べているようなんです。作り方のコツを教えてくださいませんか?」と声をかけていただいたことも。家庭とも協力して、子どもの育ちを支えていくとてもやりがいのあるこの仕事。ぜひ私たちの仲間に!

## 子どもたちとともに 保育士も育つ保育園

### 子どもは みんな一番星

子どもはみんな、キラキラと輝く可能性をもっています。一人ひとりの子どもたちの「星」を見出すこと。その「星」の輝きが子どもの未来を明るく照らすよう、個性や強みを伸ばしていくこと。みぎわはそんな保育を行っています。

### 遊びひとすじ みぎわっこ

子どもがめいっぱい遊び、毎日心から「あー、今日も楽しかった!」という気持ちで帰途につけるような園であること。子どもの「知りたい! やってみたい!」という意欲を大切に、毎日あたらしい経験をできるような工夫を凝らす『遊びひとすじ』の保育園をめざします。

みぎわでは、子どもとかかわる時間を何より大切にします。

子どもと向き合うこと、子どもと遊びこむこと、その子をありのままに受け止め、その成長にかかわること。

「遊びで輝け みぎわっこ」という保育理念は、子どものためのものでもあり、同時に、子どもと遊びこむことを心から楽しむ保育士のためのものでもあります。

子どもたちと遊びこみたい! という方を、わたしたちは求めています。

また、子どもの個性が一人ひとりさまざまであるように、職員にも、そのひとならではの強みや輝きがあります。

なぜ保育士になりたいと思ったのか、どんな保育をしたいのか。

そうした初心を胸に、自分ならではのアイデアを出して、実際の保育に反映する。

こうしたことが、みぎわではできます。

はじめは保育の仕事に慣れる時間が必要かもしれませんが、自分のやってみたいことを提案すれば、それを実現できる環境がみぎわにはあります。

自分の強みを活かし、保育内容を充実させて、自分も子どもたちも楽しませる。

それによって、自分もどんどん成長する。

そんな仕事を、私たちと一緒に行ってみませんか。





## ひとりの想いが みんなを幸せにする

私たちは保育園で、子どもたちのかけがえのない「今」という時間を彩るために働いています。さまざまな個性の、それぞれの輝きをもつ子どもたちと毎日接し、自分の考えた保育や自分のつくる給食で、子どもたちの育ちをささえる仕事です。

保護者の皆さんにいちにちの子どもの様子を伝え、その成長をともに喜んだり、子育て上の相談を受け、その子や家庭にとってよりよい子育ての方法をいっしょに考えたり。

誰のために仕事をするのか。それは、子どもと、その保護者さんのためです。保育園での仕事のいちばんの魅力は、「この人のために頑張っている」という人に毎日会えること。「ありがとう」という感謝の声を直接聞くことができ、そして何よりも、自分の頑張りが子どもたちの成長につながることでしょ。

保育園で働くやりがいと面白さを実感すると、子どもたちのために、もっとできることはないかと考えるようになり、「こうすると、子どもたちにとってもっといい環境になるのでは」

「自分の強みを磨いて、こんな保育をしてみたい」という思いがつつぎと浮かんできます。みぎわは、そうした積極的なアイデアをどんどん採用します。みんなのちからでよりよい保育を目指していきたいと願っているからです。

ひとりの職員が抱いた強い想いは、すぐにカタチになり、子どもたちや保護者の皆さん、そして同僚にもいい影響を与えて、みんなを笑顔にするのです。

### 保育士は子どもとのかかわりに集中できます

保育計画などの書類作成は、「ほんとうに大事なものに集中する」という方針。作り物も少ないので、保育士は子どもとのかかわりに集中できます。

### 心理、医療分野の専門家が仲間において保育士をサポートしています

みぎわには、臨床心理士、言語聴覚士、看護師が常駐しています。それぞれの専門性を活かして、よりよい保育ができるよう、保育士を全面的にサポートしています。

### 仕事も大事、自分の生活も大事

みぎわにはプライベートと仕事を、両立できる環境があります。残業はほとんどなく、定時で帰ることが法人全体で推奨されています。有給休暇は1年目から15日間（法定より5日多い日数）取得可能です。

### 長く働き続けることのできる職場です

人生において、子育てや親の介護、病気やケガを経験することもあるでしょう。そのようなときでも、正職員として働きつづけられる制度がみぎわにはあります。職員の健康管理にも力を入れており、毎年の定期健診では園まで来る洛和会の検診車で、業務時間内に無料受診できます。婦人科検診も希望者は毎年無料で受診できます。

## 実例紹介 保育士：三砂ひと美

### どんなときも自分のペースで働き続けられる職場です

私はかつて股関節の手術を受けることになり、入院・リハビリ期間を合わせて、6か月休職。職場復帰後も、すぐには全力で子どもたちにかかわることはできず、体に負担の少ない働き方をすることが必要と医師から言われていました。

そんなとき、みぎわで働いてよかったと思ったのは、ケガや病気、育児や介護などの理由でこれまで通りの働き方をできなくなったときも、正職員として働きつづけられる制度があることです。理由があれば、時短や週休2～3日、シフト勤務の免除、仕事内容の軽減など、自分の状況に合わせた働き方が選べるのです。



私の場合はケガからの回復が早く、すぐに完全復帰できましたが、どんなときでも自分の状況に合わせて、自分のペースで働き続けられる制度があることには、とても安心しています。



## 強みのピアノを とおして子どもたちの 育ちを支えたい

保育士 杉立直子



私が子どものころ通っていた幼稚園には、音楽が得意な先生がいました。その先生が奏でるピアノの調べにあわせて、歌ったり踊ったりしている時間はとても楽しく、自分の気持ちを素直に出せる、のびやかで幸せな感覚を今でも覚えています。それが、私と音楽とのはじめての出会いでした。

卒園後は、ピアノやエレクトーンの練習に打ち込み、ヤマハの演奏・指導グレードを取得。その後、保育士になった今、子どもたちには音楽を通して、自分の感情や想いを表現できるようになってほしいと願い、現場に立っています。リトミックやリズム遊び、リズム体操などでは、ピアノの音に合わせて体を動かす活動を多く採り入れることによって、楽しみながら子どもたちの体幹を強くしたり、脚力を鍛えることができます。

みぎわでは心理士や言語聴覚士がそれぞれの専門性をもって子どもたちの成長を支えているように、私は音楽を通して、子どもたちの発達や心理面での安定に貢献したいと考えています。音楽という表現方法を子どもたちがもつことで、自分のなかにいるんな感情があるんだということを知り、そしてその感情を素直に表現できるようになってほしい。これは、子どもたちが情緒面で成長していくためにとても大切なことだと信じています。いまは心理ミュージックアドバイザーの資格を取得するため勉強に励み、自分の保育を磨く毎日です。

## 給食室と保育室とを つなぐ懸け橋に



栄養士  
鎌倉エリナ  
中山理恵  
青木梓都把

私たちは皆、自分のつくったご飯で子どもたちを笑顔にしたいという思いで、この仕事を始めました。その想いを胸に、給食室で子どもたちのために調理をつづける日々。充実感はありませんでしたが、子どもたちは給食を楽しんでくれているのだろうか、調理面でもっと工夫できることはないのだろうか、など不安もありました。どうしても給食室と保育室との間には一定の距離が生まれがちです。だからこそ、「その距離を自分たちから縮めたい！そのために栄養士も自分のクラスを持ちたい！」と私たちは考えるようになりました。

これを園内で提案したところ、アイデアは即採用。全栄養士が担当クラスを持ち、調理の合間を縫ってクラスを訪ねるようにしました。当然、子どもたちが自分たちのつくった給食を食べている姿を見る機会も増え、どんな様子なのかがよくわかりますし、保育士

の先生からはそれぞれの子どもたちの成長段階を教わることができるようになったのです。

すると次第に、子どもたちが給食を食べている姿を、給食室で調理しているときでも思い浮かべることができるようになってきました。子どもたちの食べる力の発達にあわせて、無理なく楽しく食べることができるようにするには、こういう調理上の工夫をすればいいんじゃないかとか、保育現場で配膳しやすくするにはこういう配慮をすればどうかとか、給食室で工夫すべきことのポイントがより鮮明に見えてきたのです。

いまでは給食室と保育室との距離がグッと近くなり、これまで以上に自信をもって、給食作りに励むことができている毎日です。

## 分園をつかって 子どもたちの 保育環境をよりよくしたい

経営企画室 西村有津紀



「中京みぎわ園の隣の土地が空くんだけど・・・」という地主さんの一言で、私の「分園建設プロジェクト」は始まりました。

私は法人の経営企画室に所属し、2016年に開園した中京みぎわ園を拠点に、人事・広報を担当しています。これらの仕事は法人全体の経営にかかわる大事な役割なので、やりがいがあります。

経営企画室に限りませんが、みぎわで働く醍醐味は、自分の想いやアイデアを仕事にできること。私の場合はこの「分園建設プロジェクト」でした。中京みぎわ園はいわゆる都市型の保育所で、スペースの制約という課題を抱えていました。そうした制約があるなかで、どのように保育の質を高めていくか、職員全員で創意工夫を重ねる日々が続いていました。

冒頭の地主さんからのお声がけがあった2018年11月。これは、子どもたちが過ごすスペースを拡大する大チャンスと私は思い、分園の建設を企画・提案し、プロジェクトの担当に自ら就任したのです。

分園をつくるには、行政との交渉にはじまり、権利の登記、土地の契約、地域の方への説明会、設計士さんと協力しての建物の設計、建設業者さんを選定するための入札、備品や玩具の購入など、たくさんのステップがあります。これら一つひとつを進めていく過程では、苦労も多々あり、悩むこともありました。でも、自分の想いを込めた園舎が完成し、その園舎で子どもたちが目を輝かせて遊んでいる姿を見たとき、それまでの苦労がすべて報われ、がんばってきて良かったと思えました。

自分のやる気次第で、カタチになる大きな仕事を任せてもらえる。そして、その仕事を通じて自分も大きく成長でき、その成長が自信につながる。これが、みぎわで働く一番いいところだと思っています。

